

北東アジアの實現へ 非核兵器地帯 新しいアプローチの可能性

2012年12月8日(土) 15:00-17:00

場所：長崎大学文教キャンパス・新棟4階ホール 入場無料

「核兵器に依存しない安全保障」に向けた枠組みとして、非核兵器地帯という構想が注目されて久しい。

私たちの住む北東アジアにおいても、実現に向けた努力が議員やNGOレベルで進んでいる。だがその一方で、朝鮮半島の非核化に向けた政府間協議である「6か国協議」は難航し、打開の道筋は見えていない。

こうした中、現在の困難を乗り越え、北東アジア非核兵器地帯を実現する新しいアプローチが模索されている。著名な国際政治学者であり、米朝交渉にも関与した元米政府高官のモートン・H・ハルペリン博士が提唱する北東アジア包括的安全保障協定構想もその一つである。

本シンポジウムでは、ハルペリン博士、日中韓モンゴルの専門家らとともに、包括的アプローチによる北東アジア非核兵器地帯実現の可能性を探ってゆきたい。

プログラム (同時通訳付)

■イントロダクション

梅林宏道 (RECNA センター長)

■基調講演

モートン・H・ハルペリン

(オープン・ソサエティ財団上級顧問、元米大統領特別補佐官)

■パネル討論

ピーター・ヘイズ (ノーチラス研究所長)

李起豪 (イ・キホ) (韓国・韓信大学 平和と公共性センター長)

張貴洪 (ジョン・クィホン) (中国・復旦大学 国際機関研究センター長)

水本和実 (広島市立大学 広島平和研究所副所長)

J. エンクサイハン (駐オーストラリア・モンゴル特命全權大使 (予定))

モデレーター：中村桂子 (RECNA 准教授)

共催：核兵器廃絶長崎連絡協議会

長崎大学

長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)

申し込み・参加ご挨拶の方法

■ お問い合わせ先

長崎大学核兵器廃絶

研究センター (RECNA)

〒852-8521

長崎市文教町 1-14

TEL: 095-819-2164

FAX: 095-819-2165

recna@ml.nagasaki-u.ac.jp

http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/



モートン・
H・
ハルペリン

オープン・ソサエティ財団上級顧問、国際政治学者、クリントン、ニクソン、ジョンソンの3人の米大統領の下で要職に就いた。クリントン政権では、国務省政策企画本部長(1998年-2001年)として米朝協議に指導的に関与、大統領特別補佐官及び国家安全保障会議民主主義担当上級部長(1994年-1996年)、国防総省長官及び副長官特別顧問(1993年)、ニクソン政権では国家安全保障会議メンバー(1969年)、ジョンソン政権では国防次官補代理(1966年-1968年)を歴任。

